

が用いられる。

(1) 固定式装置

固定式装置には、クラウンループ、バンドループ、舌側弧線などがある。

(2) 可撤式装置

可撤式装置には、多数歯欠如の保険に用いられる小児義歯がある。この**床型装置**は、咀嚼、構音、審美回復などの効果もある。

d 保健指導

不正咬合には、習癖や不良な食べ方など家庭生活が影響することが少なくない。そのため、家庭生活において情緒的に不安定になる要因を除くための**保健指導**を行う。とくに、幼児が行う習癖については、親子関係を十分理解したうえで、親のみならず子ども自身が習癖を治すことを希望し、行動するように保健指導することが基本となる。

2 口臭の予防

人間関係が高度に複雑化した現代社会において、口臭に対する関心は高まっている。

口臭は原因疾患の治療、舌清掃、適切な洗口剤などの併用により、容易に減少するが、心因性の口臭病患者の対応には特別な配慮が必要である。

A 口臭の分類

口臭の分類と治療必要性（TN）を表 5-2 に示す。

表 5-2 ▶ 口臭の国際分類と治療の必要性（TN1-TN5）

真性口臭症	社会的容認限度を超える明らかな口臭が認められるもの ①生理的口臭：器質的变化、原因疾患がないもの （ニンニク摂取などによる一過性のものは除く） ②病的口臭	TN1
	・口腔由来の病的口臭：口腔の原因疾患、器質的变化、機能低下による口臭	TN2
	・全身疾患の病的口臭：耳鼻咽喉、呼吸器系疾患など	TN3
仮性口臭症	患者は口臭を訴えるが、社会的限度を超える口臭は認められず、検査結果などの説明（カウンセリング）により訴えの改善が期待できるもの	TN4
口臭恐怖症	真性口臭症、仮性口臭症に対する治療では訴えの改善が期待できないもの	TN5

TN1：説明および口腔清掃指導（セルフケア支援）
TN2：専門的清掃（PMTC）、疾患治療（歯周治療など）
TN3：医科への紹介
TN4：カウンセリング（結果の提示と説明）、専門的な指導・教育
TN5：精神科、心療内科への紹介
（TN2～TN5 には TN1 への内容が含まれる）

Support

TN
Treatment Needs
必要な処置。

実際に口臭を有する**真性口臭症**と、社会的容認限度を超える口臭が認められないにもかかわらず、患者が口臭を訴える心因性口臭（**仮性口臭症・口臭恐怖症**）に分類される。

真性口臭症はさらに**生理的口臭**と**病的口臭**に分類される。生理的口臭は治療すべき原因疾患がなく、唾液分泌の少ない起床時、空腹時、緊張時および月経時などに強くなる。病的口臭の多くは**歯周病**や**舌苔**などによる口腔由来のものが多く、全身疾患によるものは少ない。

B 口臭の原因物質

口腔由来の口臭は口腔内の嫌気性菌が口腔内の脱落上皮や白血球に含まれるタンパク質を嫌気的に分解して生じる臭気物質が原因で起こる。代表的な原因物質は**揮発性硫黄化合物**で、**硫化水素**（卵の腐敗臭：毒性が強く歯周病の原因ともなる）、**メチルメルカプタン**（野菜の腐敗臭）、**ジメチルサルファイド**（生ごみ臭）の3つがある。そのほか、タンパク質の分解産物の**アンモニア**、**インドール**、**スカトール**、炭水化物の分解産物の**アセトン**、**アルコール**などがある。全身由来の口臭としては糖尿病のアセトン臭、トリメチルアミン尿症のアミン臭などがある。

C 口臭の検査

1 官能試験

ヒトの臭覚で判定する方法（表 5-3）。口臭は人間が不快感を覚える臭いであるという点から、本来は人間の鼻の能力で判定するのが正確である。数人による一致した判定で判断するのが望ましい。

a 呼気バック方式

密閉できるテフロン性の袋に呼気を採取して別室で判定する方法。患者の呼気と正常な空気の入った袋の2つを用いて判定する。

b UBC 式官能試験

患者と診査者をついたて（スクリーン）で仕切り、ついたての中央に長さ10 cm、直径2～2.5 cm 程度のチューブを挿入固定したものを通して、患者の呼気

表 5-3 ▶ 官能試験による口臭の判定と基準

スコア	判 定	基 準
0	臭いなし	臭覚閾値以上の臭いを感知しない
1	非常に軽度	臭覚閾値以上の臭いを感知するが、悪臭と認識できない
2	軽 度	かろうじて悪臭と判定できる
3	中等度	悪臭と容易に判定できる
4	強 度	我慢できる強い悪臭
5	非常に強い	我慢できない強烈な悪臭

心因性口臭
自臭症ともいう。

その他の口腔由来の口臭
う蝕、歯垢、歯石、唾液減少。

全身由来の口臭
鼻疾患、呼吸器疾患、消化器系疾患、糖尿病、肝疾患。